10代の意見

あっという間の中学生活3年間

◇中学3年間は気付けばあっという間だった。なかでもバドミントン部の活動は初めての経験が多く、毎日が必死だったのを覚えている。入部後しばらくは練習についていくのがやっとだったが、先輩や仲間と一緒に努力していくうちに少しずつできることが増えていった。初めての試合はとても緊張したが、仲間の応援のおかげで最後まで諦めずに頑張ることができた。結果は負けてしまったが、全力でプレーすることの楽しさを実感できたのは貴重な経験であった。

◇2年生の時には仲間と何度も衝突した。今振り返ると、なぜあんなことで怒ったのだろうと思うことも多いが、当時はお互いに許せなかった。しかし、時間がたつにつれ、このままではいけないと思うようになり、勇気を出して話しかけた。互いに謝り、思いを冷静に伝え合うことで、すぐに元の関係に戻ることができた。言葉にしなければ伝わらないことがたくさんあることを学んだ。そして、この衝突があったからこそ、今の私たちの強い絆があるのだと思う。

◇3年生になり、部長を任された。部をまとめることは想像以上に大変だったが、仲間の協力に助けられた。少しずつだがチームがまとまり、ホッとしたのを覚えている。放課後の部室でくだらない話をしたり、みんなでふざけたりした時間も心に残っている。3年間、うまくいくことばかりではなかったが、そのすべてが良い思い出だ。中学校生活が終わるのは寂しいが、この経験を生かして高校でも頑張りたい。

（山梨英和高1年・小野那奈）

山梨日日新聞（2025.6.1）